



**SOPHIA
AFRICA
WEEKS**

WITH
AFRICA

Sophia
Africa Weeks
Project 2025
Vol. 5

目次

2 アフリカを知ろう！

アフリカは何カ国の国で構成されている？

A. 17カ国 B. 34カ国 C. 42カ国 D. 54カ国

3 大学生生活の比較 ～ザンビアと日本～

ヨネアさんが日本の良さとして挙げた点は？

A. 気候の良さ B. 食文化の豊かさ C. 交通の便利さ D. 教育の自由さ

4 TICAD9 ～公式パートナー事業～

TICADでは特に何の分野での民間交流が重視されていますか？

A. 芸術と音楽 B. ビジネスと投資 C. 宗教と信仰 D. 漁業と農業

5 アフリカ×ビジネス ～アフリカ開発銀行～

アフリカ開発銀行が果たす役割として最も正しいのはどれ？

A. 医療機器の販売 B. 長期融資など金融面からの支援 C. 教育制度の運営 D. 観光業の推進

6 イチゴ農家の挑戦

多田さんがイチゴ農家を選んだ理由は？

A. ケニア政府に推薦されたから B. 市場調査の結果人気だったから
C. 実家がイチゴ農家だったから D. ケニアの特産品にしたかったから

7 Spice of Africa 日本にあふれる“アフリカ産”

西洋でタコはどのように見られていることが多いですか？

A. 高級食材 B. ペット用 C. 悪魔の魚 D. 漁師の幸運の象徴

8 アフリカ旅行 ～モデルプラン～

ケニアの首都はどこですか？

A. モンバサ B. ダルエスサラーム C. ナイロビ D. カンパラ

9,10 アフリカ×日本 ～学生たちの座談会～

ルワンダで禁止されているが日本では使われていることに驚いたものは何ですか？

A. プラスチックボトル B. ビニール袋 C. 発泡スチロール容器 D. 紙コップ

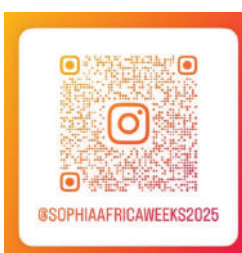
グロリアさんが「社会を変える力がある」と述べたのは誰の行動？

A. 政治家 B. 大企業の社長 C. 若い世代 D. 国際機関



クイズにも答えてみてね。
巻末のアンケートに答える
と答えがわかるよ！

各種SNS



アフリカWeeks2025
Instagram



アフリカWeeks2025
X

アフリカWeeksの詳しい
情報はアフリカWeeks
Instagram 及び Xを
チェック！
雑誌制作の裏側が
見られるかも、！？



ハドウちゃん
With AFRICA初年度からの
キャラクター

はじめに

私たちYouthの力で、アフリカと共に未来を創る。

この雑誌では、大学生活、ビジネス、文化など、さまざまな視点からアフリカをもっと身近に感じられるヒントを集めました。

ページをめくるたびに、「遠い世界」だったはずのアフリカが、きっと少しずつ手の届く存在になっていくはずです。

この一冊が、新しい共創の一步になりますように。

どうぞ、ごゆっくりお楽しみください。

SOPHIA
AFRICA
WEEKS



アフリカを知ろう

アフリカは54カ国で構成されています。国の位置関係を確認してみましょう！

アフリカを知る上で重要な「若者」の人口について学びましょう。

アフリカマップ



誌面に登場する国

- p.3 大学生生活の比較
・ザンビア
- p.5 アフリカ×ビジネス
・チュニジア
・南アフリカ
・ケニア
・ルワンダ
・カメルーン
- p.6 イチゴ農家の挑戦
・ケニア
- p.7 Spice of Africa
・エチオピア
・モーリタニア
・モロッコ
- p.8 アフリカ旅行
・ケニア
・モロッコ
- p.9-10 アフリカ×日本
・ルワンダ

アフリカの若年層人口の増加

アフリカの人口は2024年に約15億人に達し、世界の6人に1人がアフリカ出身となりました。

その中でも人口の60%は25歳未満であることから、アフリカは世界で最も若い大陸と言えるでしょう。

アフリカの若年人口は急速に増加しており、2050年までに8億3000万人を超えると予想されています。

こうした生産年齢人口の増加を適切に活用すれば、生産性の向上と、アフリカ大陸におけるより力強く包摂的な経済成長の促進につながる可能性があるのです。



違う所・同じ所

大学生生活の比較

日本とザンビア、どちらの大学生生活にも触れてきたクラアさんの話から、学生の雰囲気や学び方の違いが見えてきました。両国のリアルな学生生活をのぞいてみましょう。

インタビュー概要

ヨネア・クラアさん



出身地：ザンビア・ルサカ

学歴：ザンビア大学を卒業後、東京大学大学院
農学生命科学研究科に在籍中

日本への関心：幼少期より日本に憧れ
きっかけは日本好きなお母様の影響
特に好きなもの：アニメや折り紙

日本で感動したもの：公共交通機関の良さ

将来の目標：日本で博士号を取得すること

地元で大学に行く方は多いですか？

私たち若い世代は大学に進学する人が多いですが、祖父母世代では進学していない人が多く、世代間で差があります。都市部では進学率が高い一方、地方ではまだ低い傾向があります。私自身は都市で育ったため、進学率の高さを実感しています。こうした地域差は教育への意識の違いにも表れていますが、最近は政府の取り組みにより、小学校教育が無償化されるなど、ザンビアは教育の過渡期にあると感じます。

日本とザンビアの大学生の雰囲気に類似点はありますか？

日本とザンビア両方の国の学生はとにかく頑張り屋さんだと思います。大学に進学することを決めているのもあって、両国の大学生が優秀な成績や成果を収めています。

大学でとっている授業で面白いのがあったら教えてください。

現在通っている大学では卒業に必要な単位を取得したため、今は授業を受けていません。それでも過去の経験から楽しんだ授業といえば「IPADS」というケーススタディーです。この授業では福島県に足を運び美しい日本の田園風景や農村地帯だからこその課題などを体験しました。また、東日本大震災で被災した福島原発の当事者の話も聞けました。

ザンビアの生活費はどのくらいですか？

約200USドルほどで、生活に必要な必需品は手に入るといいます。ですが、最近は物価高もあり既存の賃金だけでは少ないと感じる家庭が多くなっていると思います。

日本とザンビアでは「学び」に対する態度の違いはありますか？

まだまだ日本のことを知らないのですが、はっきりとしたことは言えませんが、日本の学生や大学の雰囲気はザンビアよりも競争的だと思います。特に学問に対する競争心は、日本の大学の方が圧倒的に高い気がします。

まとめとして

ザンビアと違い、日本では多くの学生が大学への進学を目指すので、競争が高まっていると思います。一方、ザンビアでは学問にも集中するものの、多くの学生が「遊び」などの「学生らしい」ことに勤しむ生徒も多いです。また日本と違い、ザンビアでは大学に行っていない人を探すのが、そこまで大変ではありません。そのため、学問に対する熱意にまだ格差はあると思います。少しずつ変わってきてはいますが、まだまだザンビアにとっては長い道のりです。



クラアさんと雑誌制作メンバー

アフリカについてもっと知りたいあなたへ

上智大学では様々な方法でアフリカに関わることができます。

①アフリカ関連の授業をとってみる

25年度は全学部合わせて20以上の授業が開講されています。

②夏休み集中講義

「アフリカに学ぶ」及び「STUDY ABROAD (SOAS UNIVERSITY OF LONDON)」が開講されています。

③インターンシップ科目（短期）

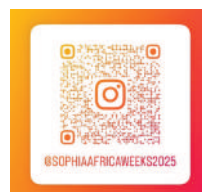
例年アフリカ開発銀行やJICAの国内/国外などのインターンシップ科目が開講されています。

④短期・長期留学他

アフリカ大陸のみで17の大学と協定を結んでいます。

Instagram

X



詳しい情報は上記QRコードから
アフリカWeeks2025 Instagram
及びXをチェック！

日本とアフリカの歩み

皆さん、TICADをご存知ですか？
日本政府主導のアフリカの開発に関する国際会議です。今年開催されるTICADを通して、アフリカの多様な面を学びましょう！

TICADとは？

TICADとは、アフリカ開発会議（Tokyo International Conference on African Development：略称 TICAD）のこと。

- アフリカの開発をテーマとする国際会議
1993 年以降、日本政府主導のもと開催
- 共催は、国連や国連開発計画（UNDP）、世界銀行、アフリカ連合委員会（AUC）

閣僚による会議に留まらず、幅広い相互交流が行われています。日・アフリカ双方の民間企業関係者によるビジネス機会の創出、国際機関や市民社会、学生などの各イベントを開催。若者・学生が描く未来、SDGs達成に向けた連携などをテーマに活発な意見交換が行われます。近年は特に、アフリカと日本企業の商談の場としての重要性が増えています。



出典：（左）外務省ホームページ（https://www.mofa.go.jp/mofaj/af/af2/page1w_000185.html） / （中）（右）TICADの実際の様子 横浜市提供

TICAD×YOUTH

アフリカWeeksはTICAD 9のパートナー事業として正式に認定されたイベントです。外務省主催のものなど他にも様々なサイドイベントが実施されており、その一例が「模擬AU会議」です。昨年日本初の試みとして成功を収め、今年第二回となる本会議は学生による実行委員会が主催し、昨年に引き続き先出のUNDPやJICA、上智大学が共催し、TICAD会期の8/20-22に横浜にて開催されます。今年から参加学生の応募が高校生にまで広げられ、さらにスケールアップしてユース世代の日本とアフリカの関わりにおいてますます重要な位置を占めるイベントになります。対談企画(p10-11)に登壇してくれたGloriaさんは今年の実行委員会のチームリーダーを務めています。詳細は右のQRコードから公式サイトをご覧ください。



第一回模擬AU 実施の様子



横浜市 TICAD9



外務省

アフリカ×ビジネス

現在経済的に急成長を遂げているアフリカ。そのようなアフリカの未来に、私たちはビジネスの側面からどのように関わっていけるのでしょうか。アフリカ地域のビジネスに携わる日本の方々に、国際機関・個人業の観点からお話を伺いました。



AFRICAN DEVELOPMENT BANK GROUP
アフリカ開発銀行グループ

金融の力でアフリカの開発に寄与する！

インタビューについて

今回は、日本人がアフリカのビジネスに携わっている方々にお話を伺う企画として、メンバーの一人が上智大学のグローバルインターンシップに参加していたご縁もあり、アフリカ開発銀行アジア代表事務所の方々にご協力いただき、学生5人が河西所長と木下次席にインタビューをさせていただきました。

河西 修所長

財務省にて30年近く経験を積み、2024年にアフリカ開発銀行アジア代表事務所長として着任。

木下 直茂次席

商社等で世界各地のインフラ業務に従事。その後10年間のアフリカ開発銀行本部での職務を経て、2021年にアジア代表事務所に次席として着任。

アフリカ開発銀行とは

アフリカの年(1960年)の4年後にアフリカ各国が設立した国際開発金融機関で、ビジネスアドバイザーの役割を担っています。「Our Bank」と呼ばれており、アフリカが創った銀行としての認識があります。

今年はTICADが開催されるため、若者のアフリカへの関心やアフリカの若者の活躍をアピールする場を作りたいと考えているそうです。

現在の業務に至るまでの経緯

木下次席：アフリカ開発銀行に興味を持ったきっかけは、上智大学で開催された説明会に参加したことです。「アフリカでは皆、目をキラキラさせて働いている」という言葉に心を動かされ、アフリカ開発銀行に関心を持ちました。本部の民間局投資官ポジションに応募しましたが、人事から連絡がなかったため、2011年に自らチュニジアを訪問。現地で民間局長に直接熱意を伝えた結果、面接に呼ばれ、最終的に採用されました。

40歳を超えて開発銀行に入行し、商社や通信会社でのインフラ経験を活かしつつ、新たに銀行業務を習得しています。南アフリカやケニアなどで再生可能エネルギー案件やPEファンド投資に関わってきました。アフリカには教科書通りの正解がない分、その挑戦は計り知れないと感じています。



河西修所長（右端） 木下直茂次席（左端）
雑誌制作メンバーたち（中央）

アフリカ開発銀行アジア代表事務所にて撮影

金融という側面から

河西所長：アフリカ各国の経済社会の開発を支援するために、民間金融機関では難しいような長期の融資等を通じて、アフリカの成長と開発課題の解決に大きく貢献しています。

アフリカの成長と課題解決には、様々なインフラの整備も含めて多額の資金ニーズが存在しています。民間資金等を含めて様々な資金も呼び込みながら、持続可能なプロジェクトを組成していくためにも、金融という側面からアフリカ開発銀行が果たす役割は極めて大きいです。

業務上のやりがい

木下次席：開発銀行の業務は、多くのやりがいと貴重な経験を提供してくれます。ルワンダの浄水プロジェクトやウガンダの水力発電プロジェクトなどを通じて、生活環境の改善や地域発展に貢献できる喜びを感じました。また、多様な国籍・人種の仲間と信頼関係を築き、共通の目標に向かって協力することで、視野を広げ成長する機会も多いです。さらに、コロナ禍での帰国時には同僚との温かいオンライン送別会も行われ、一生の思い出となり、今でもアフリカの仲間と繋がっていると感じています。

アフリカの魅力

河西所長：アフリカは若年人口の増加や豊富な資源など**多くの可能性を持ち**、日本の高品質な技術や製品も評価されています。現地では日本車の信頼性も浸透しています。一方で貧困やインフラ不足といった課題も多いですが、それは**ビジネスチャンス**の余地があることも示しており、日本の技術や経験を活かせる機会は今後さらに広がると考えられます。

イチゴ農家の挑戦！

前のページでは日本からアフリカビジネスに携わる方々のお話を伺いました。

このページでは実際にアフリカに渡ってビジネスをしている多田遼太郎さんのインタビューをご紹介します。挑戦することの面白さや、お仕事のやりがいについてお聞きしました。

現在の仕事

私は1年ほど前から東アフリカのケニアのンマンダンドゥ村という所でイチゴ農園を経営しています。また、アフリカでビジネスをしている日本企業が所有する畑に赴いて現地で日本人の目線を提供する仕事もしています。

ケニアでイチゴ農家になるまで

私の実家はイチゴ農家でしたが、子供の頃から自分とは人種も文化も全く違う地域、特に新興国に移住してみたいと思っていました。大学生の頃は東京外国語大学で国際関係学を学びながら東南アジアでボランティア活動を行っていました。大学卒業後、私は新卒で就職せずにケニアに行き、現地で現在のビジネスパートナーと出会いました。ケニアでは正規雇用が難しく、私が帰国する直前に彼が失業してしまう事を知り、一緒にビジネスを興す約束をしました。帰国後再びケニアに渡り、勝手を知っているイチゴ農家を始めました。

ンマンダンドゥ村について

ンマンダンドゥ村は自分以外に日本人が居ないどころか、**村人全員がケニア人のキクユ族**である村です。そのため、外国人の私はどうしても周囲から浮いてしまいましたが、**日本では感じる事のないマイノリティ感**を味わえるこの環境を面白いと思っています。

インタビュー後記

「ビジネスとしてアフリカに関わる」ということの根底には、「アフリカの国々と良い関係性を築きたい」「アフリカが好き」というシンプルな気持ちがあるのかもしれない、と感じました。インタビューをさせていただいた皆さんが、アフリカについて、ご自身の関わるビジネスについて話されている際の、きらきらとした素敵な笑顔が心に残っています。「アフリカとビジネスを通して関わる」ということのイメージが我々自身の中でも明確にイメージできるようになりました。ご協力いただいた皆さまにこの場をお借りして御礼申し上げます。

齊藤舞 飯田芽生 武藤三紗 大橋悠生 綱藤梨乃 中武そら

アフリカにビジネスに関わる可能性

木下次席：持続可能な開発には、開発によって市場価値を高めて投資を呼び込みさらなる開発を進めるという循環が必要であり、循環を達成するのに必要なのはODAやJICAのような政府の支援だけではなく**ビジネス的な投資**だと考えています。そのため、アフリカ開発銀行では民間ビジネスに投資や融資を行い、**民間企業が自立し投資の対象として信頼される存在となることを手助け**しています。



多田遼太郎さん：

東京外国語大学卒。2024年からケニアでイチゴ農家を営む。



アフリカビジネスの魅力

アフリカビジネスで面白いのは日本では当然に出来る事がアフリカでは上手くいかない事ですね。急に電気や水といったインフラが止まり作業が出来なくなるなど**日本では滅多に遭遇しないトラブルの連続**で仕事に飽きません。トラブルでやめたくなるところかトラブルを求めている自分が居ます。ンマンダンドゥ村でのマイノリティ感と合わさって**刺激的で非日常的な毎日**を送れています。

アフリカビジネスの将来

アフリカは**最後のフロンティア**と呼ばれており、今後人口も経済も伸びていく事が間違いありません。しかし、日本は金融資産を大量に保有しているにも関わらず、中国や韓国などと比べるとアフリカへの投資が非常に少なくもったいないと感じています。

日本人がアフリカビジネスに関わる意義

どんなレベルの人でも一定の水準で働けるという事は日本人の特長です。そのため、日本人が**当たり前**に持っている**勤勉さ**で**アフリカで働くだけでビジネス的に差別化出来ます**。若者のスタートアップも、ケニアで20代で起業する人は非常に少ないため可能性があると感じています。また、アフリカで事業をすれば場所を変えただけで日本でするより注目されるため、かなり**コスパが良い**と思います。

日本で感じられる身近なアフリカについてご紹介します。

今回は、上智大学周辺のアフリカ料理店と、日本の食卓に並ぶアフリカ産の“ある食材”について取り上げていきます。
ぜひ皆さんも周囲で発見できるアフリカに注目してみてください！

Spice of Africa

一皿から始まる世界

今回お邪魔したのは、日本で最初にできたアフリカ料理のお店「ローズ・ド・サハラ」のシェフが、その味を伝え残したいという思いで2008年2月に赤坂にオープンしたお店です。

今回は、アフリカWeeks学生運営委員会のメンバーで、エチオピア料理の「ドロワット」を注文しました。
ドロワットとは、エチオピアのスパイスを使った鶏肉のシチューのことで、アムハラ語で「ドロ」が鶏肉、「ワット」がシチューを意味する煮込み料理です。

ドロワット (Doro Wat)



雑誌メンバーの食レポ

鶏肉はホロホロと柔らかく煮込まれていて、口の中でほどけるようにほぐれます。割とピリッとくるスパイシーなカレーでしたが、カレーに入ってるゆで卵が辛さをマイルドにしてくれて美味しく食べられました！

インドカレーのスパイスとはまた異なる、香ばしくもピリッとした辛さが特徴で、日本人の口にも合うとても美味しい料理でした。

スパイシーなカレーとターメリックライスからほのかなスパイスの香りを感じられて、味も香りも満足できる一皿です！

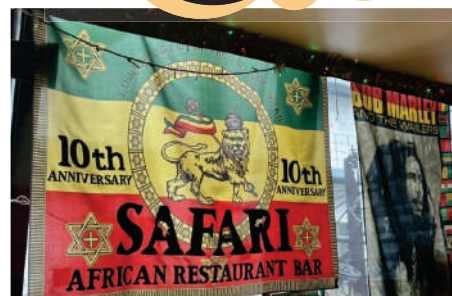
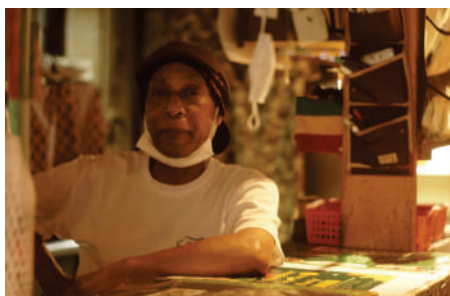


エチオピア出身のオーナー、ワンダサンさんが経営しており、エチオピアをはじめとするアフリカ各地の伝統料理を提供しています。



お店情報

サファリ / SAFARI
千代田線赤坂駅1番出口徒歩3分
東京都港区赤坂3 - 13 - 1ベルズ赤坂2F



日本にあふれる“アフリカ産”

日本で感じられるアフリカの魅力は、アフリカ料理にとどまりません。実は、大阪のB級グルメの代表格である「たこ焼き」にも、アフリカとの意外なつながりがあるのです。アフリカの多くの地域では、農業や漁業が盛んに行われており、そのひとつがタコ漁です。特にモロッコやモーリタニアといった西アフリカの国々では、タコ漁が主要な産業のひとつとなっています。実際に、日本の食卓に並ぶタコの多くが、これらの国々から輸入されています。西洋では「悪魔の魚」として敬遠されることもあるタコですが、世界のタコ消費量の大半を日本が占めており、“タコ”を通じて日本とアフリカはとても深い関係にあるといえるでしょう。



コートジボワールの漁村で出港する様子

アフリカ旅行 3Daysモデルプラン

見て、感じる、本当のアフリカ

どこか遠くて、少し未知な場所——それがアフリカの最初の印象かもしれません。今回は、東アフリカの歴史と自然を体感できるケニアと、北アフリカの文化と世界遺産の数々に触れられるモロッコの3日間の旅行プランを紹介します。きっと価値観が広がる、感動の世界が待っているはずです。

KENYA(東アフリカ)



首都：ナイロビ
言語：スワヒリ語、英語他
面積：58.3万平方キロメートル
(日本の約1.5倍)

MOROCCO(北アフリカ)



首都：ラバト
言語：アラビア語、ベルベル語他
面積：44.6万平方キロメートル
(日本の約1.2倍)

Day1 モンバサ

「奴隷貿易の港として使われていたモンバサ。歴史ある建造物の中で現代の生活が営まれているところが興味深いです。」(雑誌制作メンバー)

モンバサで有名なジーザス要塞。
現在はフォート・ジーザス博物館として開かれています。訪れる前にしっかりと歴史を理解しておくことも、現地で深い学びを得るために大切です。



移動日

- Day2 おすすめの移動手段
- Madaraka Express
 - 車 (Uberなど)

Madaraka Expressは2017年に開通した高速鉄道です。



Day3 リフトバレー州 アンボセリ国立公園

「野生のキリンの群れがバスと楽しそうに並走している姿に、心を動かされました。国立公園で、近い距離から優雅に歩く姿を見るのも、感動します。」

(P.5 アフリカ開発銀行アジア代表事務所 木下次席)

キリンには、国立公園の敷地外でも出会えます。何とも形容し難い、その雄大な姿に感動すること間違いなしです。



アンボセリ国立公園では、キリンの他にも、ゾウ・シマウマ・インパラなどを見られます。

Day1 マラケシュ旧市街

北アフリカ最大の規模を誇るマラケシュはモロッコ中央部にあるアトラス山脈の麓に築かれた都市です。迷路のように複雑に広がるスークは、とてもエネルギー感があります。複数の広場でショッピングや祭りを楽しむことができます。

街の中心部にある広場は11世紀から利用されていたもので、無形文化遺産にも登録されています。



Day2 シャウエン

イスラム教徒と結び付きが深い街です。真っ青なメディナ(旧市街)で街歩きを楽しむことができます。



Day3 アトラス山脈を超える

モロッコを北部都市部と南部の砂漠地帯へと分ける山脈。市街地から眺めるだけでも美しいです。



ハイキングや自転車でのツアーもあるそうです！

アイト・ベン・ハッドゥ

モロッコで一番美しいと言われる村であり、外敵の侵入に備え、入口は1つのみ。数多くの映画のロケ地にもなりました。



皆さまの声を聞かせてください！

実際に訪れた方ならではの体験談や、もっとおすすめのルートがあれば、ぜひ教えてください。「ここはこう行くとスムーズ」「ここは絶対寄ってほしい」など、生の声をお待ちしています。それぞれの旅の経験を共有しましょう！
右記のQRコードからご回答いただけますと幸いです。

Scan here!



結果の閲覧はこちらから↓



グロリア…でも実際は大学以外で英語を話せる人を見つけることが大変で驚きました。前に一度道に迷ったことがあり、自分がどこにいるかも分からなかったため、誰かに話しかけようとしたが大変でした。しかし、若い世代は英語が話せるため変化していつているように思います。将来的にさらに変わるでしょう。日本のレベルの高い教育にも関わらず、英語を話せない人が多いことはギャップを感じます。

網藤（雑誌制作メンバー）…なぜ日本人は他の先進国の人たちよりも英語を話さないと思いますか？

グロリア…英語を知ってはいるけど、ミスをするのを怖がっているからだと思います。友達に単語はわかるけど間違えるのが怖いようでした。完璧にならなきゃいけない、ちゃんと話すようにしなきゃいけないように育ったのかもしれないですね。私たちにとってはミスをすることは全然大丈夫なんです。なぜなら、間違えることで学び、成長することができるから。

（参加者一同激しく頷く）

林…ハロー以外にもっと英語を知っているはず。もっと自信をもつべきだと思います。日本人はシャイすぎます。日本人の共通している性格なのかな。

北川…次のトピックに移りましょう。小さい頃から「こうするのが当たり前」だと教わってきたことはありますか？

畑中…日本では、高校、大学に行って、大学卒業した後はすぐ会社に入社すべきだとされることだと思っています。あたかも自分の人生が他の人や社会に決められてるみたいに。自分のしたいことをすべきだと思います。

林…話が少し違うかもしれないけど、小さい頃からホットドックのソーセージにマヨネーズをかけると教わってきました。でもそれって普通じゃないですよ！みんなもやるんですか？

グロリア…ドイツではしますよ。でも私はケチャップかな。

林…それがスタンダードですよ。

北川…グロリアさんはどうですか？

グロリア…私は自分のやりたくないことは強制されてこなかったからあまり共感しないかもしれません。ただアフリカ人の親は特定の分野、例えば医者だったり、エンジニアになることを勧めることが多いかもしれませんね。でもそれは私の家族がほとんどその分野にいたからからです。それ以外はないですね。

北川…最後のトピックは未来への望みです。社会や自分の未来に対する期待について話してください。

畑中…私は将来発展途上国で格差や貧困をなくす活動をしたいです。貧困を根絶する事は不可能ですけど、減らすことに貢献したいと考えています。

林…とても素敵ですね！

林…そこまで大きくないけれど、私が人生の中でより良い場所を見つけて幸せでいる事と、多くの人々が幸せになる事かなと思います。私はまだ将来やりたいことも決まっていし、探している途中なので私と同じ2年生です。すでに自分が何をしたいか見つけている畑中さんには憧れます。

畑中…林さんの夢もとても重要なことだと思います。グロリアさんは、世界の未来についてはどう考えますか？

グロリア…日本とアフリカの共創が見てみたいです。日本とアフリカは知識を共有すれば、何か凄い事が出来るはず。異なるレベルの色々な分野においてで互いに補え合える関係だと思っています。

後はどんな行動が社会を変えるのかというと、若い世代の今の仕組みに挑戦する事が革新を起こして世界をより良くするのだと考えています。



参加者と雑誌制作メンバーたち

インタビューの続きはアフリカWeeks2025 SNSをチェック！

Participants Profile

+雑誌制作メンバー5人が参加しました！



畑中エムレ太朗

上智大学 経済学部
経済学科 2年
#日本とトルコの
ミックス



Gloria KAMWEZI

北海道大学
環境科学専攻
#ルワンダ出身
#模擬AU



北川千翔

上智大学 文学部
英文学科 2年
#対談のホスト
#模擬AU



林楽琳紗

上智大学 外国語学部
ポルトガル語学科 2年
#アメリカに住んでいた
帰国子女girl

アフリカ×日本

学生たちの座談会

今回の対談では、異なるバックグラウンドを持つ学生が、同じ若い世代として様々なトピックについて話しました。

※誌面に載っている対談の内容は一部になります。
また、英語を日翻訳する際、言葉のニュアンスによる意識が行われています。

北川..海外から見ても、もしくは日本人として日本の印象はどのように感じますか？

畑中..海外の友達と交流していると、日本はとても独特で、日本人はとても礼儀正しいと感じます。文化も他の国とはかなり異なりますよね。

グロリア..日本人は親切で礼儀正しく、謙虚で相手を大切にします。他国と比較して好きなところは、セキュリティがしっかりしていることや、多くの場所がきれいな点です。また、日本のサステナブルな取り組みにも感動しています。初めて日本に来た時、小さな子どもがごみの分別をしていたのが印象に残っています。さらに、先端技術も素晴らしいと感じます。

畑中..逆に違和感を感じたことはありますか？

グロリア..私の出身のルワンダも日本と同じく持続可能な社会の実現に注力しています。違和感を感じることがあるとすれば、日本ではビニール袋が禁止されていないことですね。

グロリア..ルワンダではビニール袋が禁止されていて、紙袋がエコバッグのみを使用します。なのでそこは少し驚きでした。ただプラスチックの回収方法が確立されていて、道端にプラスチックが落ちていないことは良いことだと思います。

林..日本は本当にきれいだと思います。アメリカに数年住んでいたことがあり、二週間前にもアメリカに行ってきたんですが、正直、汚れが目立って驚きました。日本に戻ると、少しごみが落ちていても、それでも全体的にずっときれいだと感じます。東京は場所によっては少し汚いこともありますが、田舎では少しも少なく、とてもきれいです。それに、みんな礼儀正しく、静かで落ち着いているところも大好きです。

北川..日本の一般的な印象と実際にギャップを感じることはありますか？

グロリア..子供の頃から日本のことはずっと好きだけど、日本は先進国だから、英語が理解できる日本人は多いと思っていました。

国連経済社会局 包摂的社会開発部「アフリカの急速な人口増加：若者の失業問題への取り組み」(2025年5月2日参照)

<https://social.desa.un.org/sdn/africas-fast-growing-population-tackling-youth-unemployment>

TICAD9 (2024)「TICAD9 報告書」(2025年4月24日参照)

<https://ticad9.city.yokohama.lg.jp/wp-content/uploads/2024/11/df7b35a4a3393ad240930aa030db1544.pdf>

TICAD9 (2024)「横浜とアフリカのつながり」(2025年4月24日参照)

https://ticad9.city.yokohama.lg.jp/wp-content/uploads/2024/08/yokohamatoafrica_jp.pdf

外務省「アフリカ連合 (AU)」(2025年4月24日参照)

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/oau/index.html>

世界銀行「世界銀行」(2025年4月24日参照)

<https://www.worldbank.org/ja/country/japan>

NHK (2025)「実は日本から伝わった?! モーリタニアのタコ漁」(2025年4月24日参照)

<https://www.nhk.or.jp/radio/magazine/article/gr/cik20240121.html>

学研プラス (2021)『地球の歩き方 モロッコ 2019-2020』

エス・ティー・ワールド (n.d.)「アンボセリ国立公園サファリツアー」(2025年4月24日参照)

https://stworld.jp/feature/KE/kenya_safari/amboseli.html

skyticket (2021)「モンバサのジーザス要塞」(2025年4月24日参照)

<https://skyticket.jp/guide/134417/>

読者の皆さまへ

『With Africa』を手にとっていただき、誠にありがとうございます。

今年はTICAD（アフリカ開発会議）が開催される年でもあり、本誌も例年以上に学びと面白さをお届けできる雑誌を目指して編集しました。

様々な雑誌企画を通して、アフリカの多様な魅力をお届けできればと願っております。また本誌に込めた制作チームのアフリカへの熱い思いが皆さまに届き、少しでもアフリカを「知るきっかけ」や「関心を持つきっかけ」となれば、これ以上に嬉しいことはありません。

さて、『With Africa』は今年で創刊5年目を迎え、第5号を無事発刊することができました。これもひとえに、読者の皆さま、制作に関わってくださったすべての方々、そして本誌のバトンをつないでくださった歴代の編集者の皆さまのおかげです。

心より感謝申し上げます。

綱藤梨乃 丹羽奏絵

齊藤舞 高木伸太郎 武藤三紗 北川千翔 中村克己 大橋悠生 林楽琳紗
飯田芽生 遠藤みのり 大谷真緒 柴田菜月 山田真愛 山本杏珠
渋谷大誠 中武そら 立川理紗 米倉心之介 阿部也織澄

Special Thanks to

外務省TICAD担当者様、横浜市TICAD担当者様（TICAD）
河西修様、木下直茂様、多田隆太郎様（アフリカ×ビジネス）
ヨネア・クアラ様（大学生生活の比較）、ワンダサン様（Spice of Africa）
Gloria KAMWEZI様、畑中エムレ太朗さん（対談）
天野朱梨さん（表紙用写真のご提供）

読者アンケート

今後さらに充実した内容をお届けするために、簡単な読者アンケートにご協力いただくと嬉しいです。

アンケートに回答していただくと目次ページのクイズの答えがご覧になれます。

Scan here!



上智大学

Sophia University